

# 農林中央金庫グループの 活動状況

当金庫グループでは、さまざまな取組みを通じて、  
よりよい環境・住みやすい地域・  
豊かな社会づくりに貢献しています。

# 農林中央金庫のCSR取組方針

日本の農林水産業のために。私たちの活動は、会員とともにあります。

## 農林中央金庫の基本的使命

農林水産業協同組織の中央機関としての機能発揮に努めます。

当金庫は、1923年(大正12年)に「産業組合中央金庫」として設立され、1943年(昭和18年)に名称を「農林中央金庫」に改めました。現在は「農林中央金庫法」を根拠法とし、各地域の協同組合と都道府県段階の連合会(信農連、信漁連、県森連など)を会員(出資団体)とする協同組織の中央機関として活動しております。農林中央金庫法第一条の「目的」には、「会員に金融の円滑化を図ることにより農林水産業の発展に寄与し、国民経済の発展に資すること」が基本的な使命として定められています。

この使命を果たすため、当金庫は、JA・JF(漁協)が組合員利用者のみなさまからお預かりした貯金を原資とする会員からの預金などにより調達した資金をもとに、会員、農林水産業者、農林水産業に関連する企業、および地方公共団体などへの貸出を行っています。

また、会員が保有する資金の最終的な運用の担い手として、国内外で多様な投融資を行い、資金の効率的運用を図り、会員への安定的な収益還元を努めております。

さらに、信用事業(金融事業)を営む全国のJA・JFの事業企画、健全経営の維持、国内有数の規模である共通業務システムの運営等に関しては、都道府県および全国段階の連合会と連携し、「JAバンク」・「JFマリンバンク」の名のもとで一体的な運営を行っています。

## 農林中央金庫のCSR取組方針

業務全般を通じて会員の事業・活動をサポートし、農林水産業のフィールドで現場の声に答えながら、会員と協調・連携したCSR活動を行ってまいります。

当金庫は、農林水産業の協同組織を基盤とする金融機関として、またグローバルな投融資活動を行う金融機関として、多様なステークホルダーの信頼を得て、経済・

社会の持続的な発展に貢献していくことをCSR活動の基本としています。取組みにあたっては、「法令等遵守の徹底など強固な内部管理態勢」と「多様な人材が活躍できる人事施策」をすべての信頼の基盤とし、業務全般を通じて、①会員への貢献、②農林水産業振興への貢献、および、③社会への貢献、を3つの柱としております。

近年は、自然環境の保全、食品の安全性、そして地域経済・社会の活性化など、わが国が抱える重要なテーマについて、企業が果たすべき責任もさらに重みを増しています。

私たち協同組織は「相互扶助」と「共生」を基本理念に掲げ、農林水産業と地域をフィールドとし、その振興と発展を事業の目的としてまいりました。そこでは、従来から会員を中心として、農林水産業者や地域社会に対する多様かつきめ細かい事業や活動が展開されています。当金庫のCSR活動は、これをサポートするかたちで、「現場の声」に答えながら、会員と協調し、相互に連携した取組みを中心に進めてまいります。

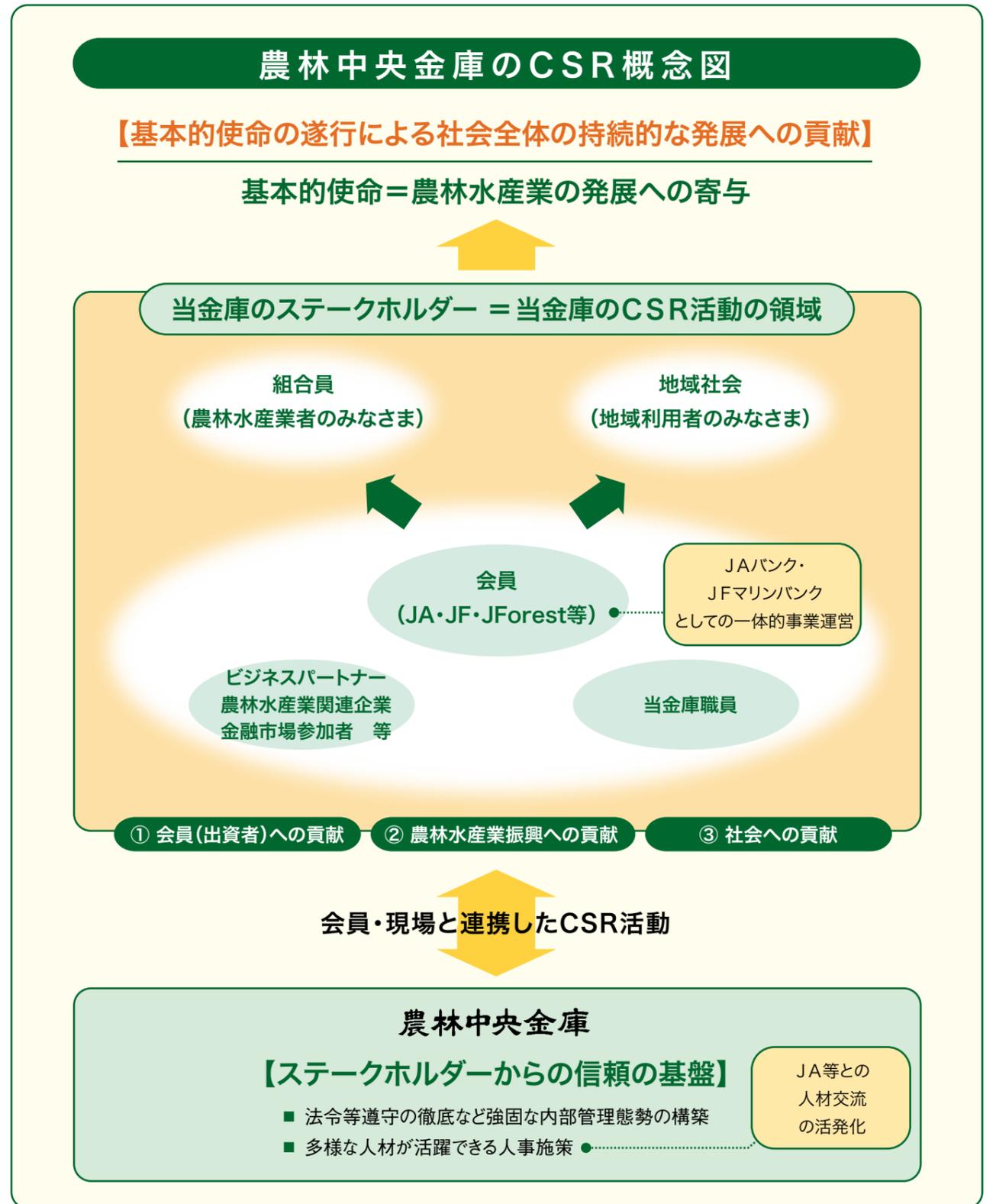
なお、平成21年度に策定いたしました「経営安定化計画」につきましては、この2年間の機能強化等への取組実績をもって一旦区切りをつけ、新たな中期経営計画を策定し、平成23年度から2年間の当金庫経営の指針とすることとしております。

また、農林水産業系統組織の一員としての自覚の強化、系統・農林水産業に関する理解の深化のため、JAや都道府県連合会などとの交流人事の活発化や、本支店における役職員向け講演会を開催しています。

## CSR活動の推進体制

ステークホルダーのみなさまの期待にお応えするため、CSRを推進する体制の整備に努めています。

当金庫では、平成20年7月に理事会の下部機関としての「CSR委員会」、また、CSR活動全般を統括する機能を担う「CSR推進室」を設置するなど、体制の強化を



図ってまいりました。

当金庫のCSR取組方針は、CSR委員会での協議を経て理事会で決定されます。その方針に基づき、個別の活動を所管する部署が会員等との調整を行い、CSR推進室と連携しながら活動しています。また、個別事業の

運営に関しては、学識経験者や専門家の方々の運営委員会等へのご参加を得て、適切な運営に努めています。

本報告書は、CSR推進室が中心となり作成・発行しております。今後とも情報発信の充実に努め、みなさまとのコミュニケーションの充実に努めてまいります。

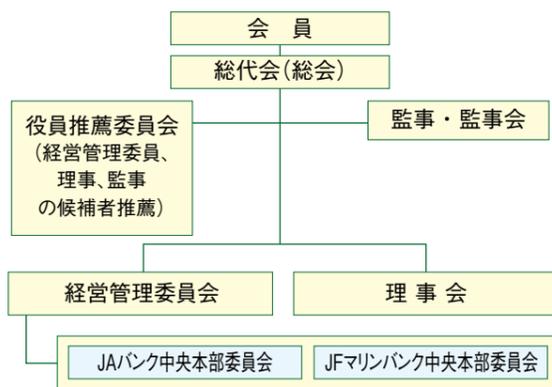
社会に信頼される金融機関であり続けるために、  
経営管理態勢の強化に不断の取組みを続けます。

**経営体制（コーポレートガバナンス）**

系統信用事業を支える基本的使命と国内有数の金融機関としての社会的責任を果たす基盤であるコーポレートガバナンスの強化に努めています。

当金庫は、農林水産業者の協同組織の全国金融機関であると同時に、国内外での巨額な資金運用を通じて金融・資本市場に大きな影響を及ぼす機関投資家としての側面をあわせもっています。これを受けて、当金庫の意思決定は、会員総会に代わって会員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を遵守しつつ、農林中央金庫法に定められた「経営管理委員会」と「理事会」が協同組織の内外の諸情勢を踏まえ、分担・連携する体制としています。

農林中央金庫の経営体制

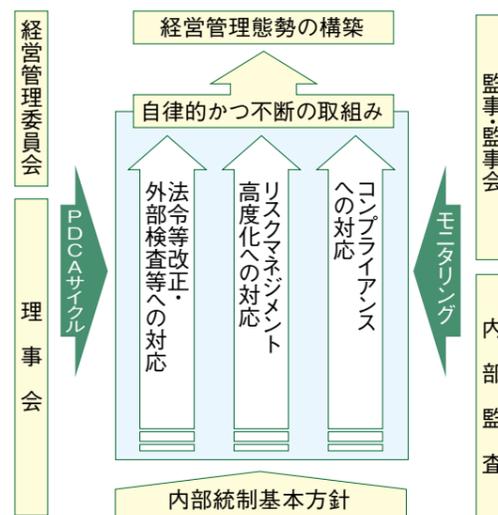


**内部統制強化**

経営管理態勢の構築を経営の最重要課題と位置づけ、内部統制強化に向けた不断の取組みを続けています。

当金庫は、農林水産業者の協同組織を基盤とした金融機関としての基本的使命と社会的責任を果たしていくために、経営管理態勢の構築を経営の最重要課題と位置付けるとともに、企業倫理および法令などの遵守、適切なリスク管理その他業務執行の適正性を確保するための内部統制に関する基本方針を制定しています。

内部統制強化への取組み



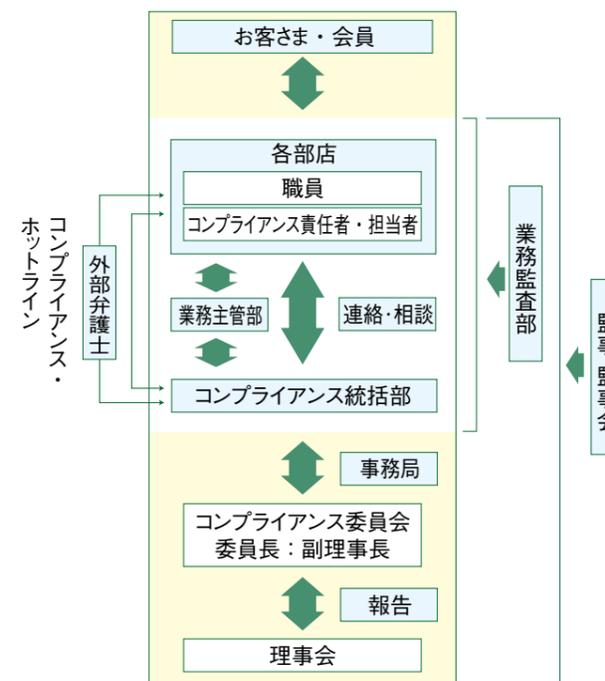
経営体制の詳細な情報は、2011年版ディスクロージャー誌をご参照ください。  
[http://www.nochubank.or.jp/ir/disclosure/pdf/discr\\_11.pdf](http://www.nochubank.or.jp/ir/disclosure/pdf/discr_11.pdf)

**コンプライアンス**

コンプライアンス態勢の整備と実効性向上を、重要な経営課題として不断の取組みを続けています。

当金庫は、わが国金融システムの中核を担うグローバルな金融機関として、またJAバンク・JFマリンバンクの全国機関として、その基本的使命と社会的責任を果たし、社会情勢や経営環境の変化を踏まえ、お客さまや会員からの信頼に応えるために、徹底した自己責任原則のもとで法令遵守等社会的規範に則った業務運営を行うとともに、ディスクロージャー（情報公開）とアカウントビリティ（説明責任）を重視し透明性を確保するよう努めることにより、コンプライアンスへの不断の取組みを積み重ねています。

コンプライアンス運営態勢

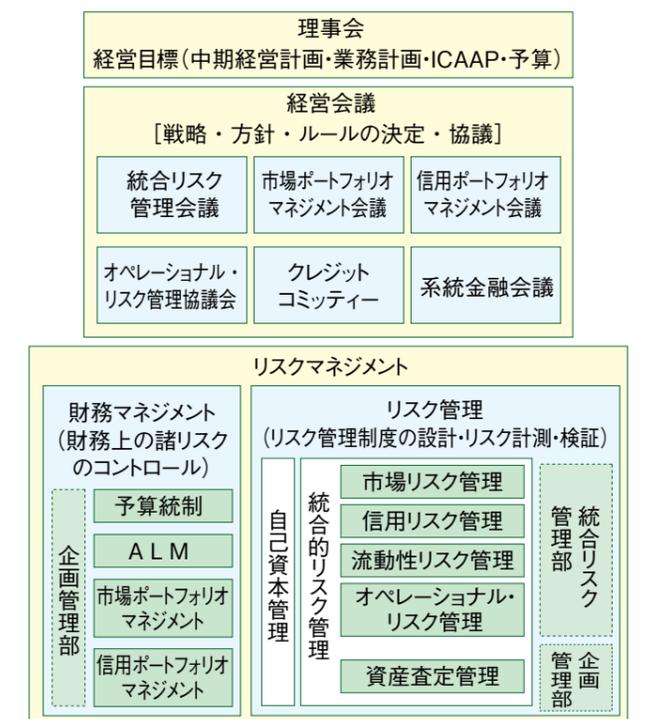


**リスク管理**

農林漁業協同組織の全国金融機関として取り組む収益還元や機能発揮を支える安定した財務基盤を構築するため、リスク管理態勢の高度化に努めています。

当金庫は、認識すべきリスクの種類や管理のための体制・手法などのリスク管理の基本的な体系を定めた「リスクマネジメント基本方針」を制定し、業務を運営するなかで直面するリスクの重要性評価を行い、管理対象とするリスクを特定したうえで、各リスクの特性を踏まえた個別の管理を行うとともに、計量化手法を用いてこれらのリスクを総体的に把握し、経営体力と比較して管理する統合的リスク管理を行っています。

リスク管理体制



人材育成

経営環境の変化に柔軟に対応するチャレンジ精神に溢れた中核人材の育成を目指し、職員一人ひとりの自主的な取組みを支援しています。

当金庫は、人材育成にも力を入れています。業務目標の設定や成果の検証、仕事上で発揮された能力の振り返りを通じて、職員の能力開発に対する意識・取組みの向上を図り、豊富な研修メニューでサポートを行っています。うち、新入職員には約2週間のJA現地研修を実施し、「現場からの学習」を促しています。

さらに、系統団体などから有識者を招聘した研修会を行うとともに、若手・中堅職員を中心にJA・信農連ほか系統団体との人的交流を強化しています。

主な人材育成プログラム

- |   |  |
|---|--|
| <p><b>集合研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア開発研修:能力の棚卸・自己分析を通じてキャリア開発意識を醸成</li> <li>管理職研修:リーダーシップ、部下育成、効率的な業務処理等のマネジメントに必要な知識の習得・向上</li> <li>ビジネススキル研修:コーチング、ネゴシエーション、7つの習慣等のビジネススキルの習得・向上</li> <li>企業診断研修:企業経営にかかる基礎理論の理解とコンサルティング能力の習得・向上</li> </ul> <p><b>自己啓発支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通信研修、外部資格取得、外国語学校通学助成制度:職員の自律的なキャリア開発の支援として、各種取組みにかかる費用の一部を助成</li> </ul> | <p><b>外部派遣</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外留学:MBA・LL.M等への派遣を通じた専門知識の習得、国際感覚の養成</li> <li>海外トレーニー:海外支店における各種実務を通じたグローバル人材の養成</li> <li>異業種交流型研修、運用会社、JA・信農連等への派遣・出向を通じた人材交流、専門知識の習得</li> </ul> <p><b>新人教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新入職員職場教育制度、指導係研修</li> <li>受入研修、新人基礎研修、JA現地研修</li> </ul> <p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>業後研修、土曜セミナー</li> <li>系統有識者等による講演、職員勉強会を通じた系統組織の一員としての意識醸成</li> <li>eラーニング</li> </ul> |
|---|--|

JA現地研修（研修先：JA岡山西に学ぶ）

JA岡山西（岡山県）現地研修全日程

- |      |                      |                    |
|------|----------------------|--------------------|
| 1日目  | <b>JA本店</b>          | 本店研修（地域・JA概要等）     |
| ↓    |                      |                    |
| 2日目  | <b>営農部・経済部</b>       | 直売所での販売業務他         |
| ↓    |                      |                    |
| 3日目  | <b>共済事務・事故処理センター</b> | 共済事務・事故処理、直売業務     |
| ↓    |                      |                    |
| 4日目  | <b>信用部</b>           | イベント・表彰式参加         |
| ↓    |                      |                    |
| 5日目  | <b>アグリセンター</b>       | 青果物収集出荷作業          |
| ↓    |                      |                    |
| 6日目  | <b>農業実習</b>          | 草引き、野菜の収穫          |
| ↓    |                      |                    |
| 7日目  | <b>農業実習</b>          | 野菜販売の袋詰め           |
| ↓    |                      |                    |
| 8日目  | <b>マーケット</b>         | 品出、陳列他、法要品包装、葬儀片付け |
| ↓    |                      |                    |
| 9日目  | <b>支店</b>            | 支店信用窓口、帳票・伝票整理他    |
| ↓    |                      |                    |
| 10日目 | <b>直売所</b>           | 直売所での販売業務          |
| ↓    |                      |                    |
| 11日目 | <b>配送センター</b>        | 配送準備、配送補助          |
| ↓    |                      |                    |
| 12日目 | <b>JA本店</b>          | 研修まとめ              |

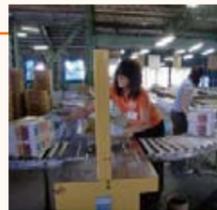
JA研修全日程を終えた感想

総合事業を展開するJAでは、職員のみならず、組合員の多様なニーズに応えるため、熱心に幅広い業務に取り組んでおられました。組合員の声に耳を傾け、日々努力している姿を目の当たりにし、胸を打たれる毎日でした。

お世話になったJAの直売所では、組合員の農作物を取り扱うだけでなく、営農指導や資材販売も同時に行い、組合員のニーズに応える体制が整っていました。そこには、組合員とJA職員が親密に話を交わし、その会話のなかからJAへの希望・要望を汲み取り、応えていくという、地域に密着した組合員とJAの信頼関係が存在しており、一般の企業とは異なるJAの強みを実感することができました。

また、農業実習では、夏の暑い日差しの中での野菜類の収穫作業や、屈みこんでの草引きなどの農作業を手伝わせていただき、普段口にする野菜などは、収穫するまでに大変な作業が重ねられているということを知ることができました。さらに、農作物は予測できない天候や獣害によって出来栄が左右されるなどの厳しい条件のなかで、より良い品質のものを出荷する努力を重ねており、農家の方々の姿勢に頭が下がる思いと同時に、食べ物を大切に、感謝する気持ちを強く持つことができました。

この研修を通じ、農林中金が取り扱う資金の重みは、こうした組合員やJA職員のみならずの毎日の努力の結果であるということを感じました。その重みをしっかりと心に刻み、お世話になったみなさまの期待に応えられるよう、今後の業務に励んでいきたいと思っています。



営業第一部 真崎 陽子  
岡山支店 和田 真渚美

人的交流の強化

JA・信農連ほか系統団体と当金庫での人的交流を従来以上に充実させ、相互理解の促進とノウハウ共有化・人材育成に努めています。

JA → 農中

JAからのトレーニーの受入れ

JAにおける信用事業の推進企画・推進指導業務の中核を担う人材の育成を目的に、JA信用事業企画・実践研修によるトレーニーの受入れや、金庫支店におけるJA職員トレーニーの受入れを行っています。



JA岡山 根木 崇行

（研修先：JAバンク企画推進部）

研修に参加させていただいて大変有意義に感じていることは、トレーニーを含め全国のJA職員の方々や金庫職員の方々と意見交換する機会が持てることです。

また、全国のJAの状況を見ていくなかで、JA岡山の現状について良い点・改善点も見えたように思います。この研修で得ることができたものを自JAの現場へフィードバックしていきたいと考えています。



JA足利 小野 紀一

（研修先：宇都宮支店）

業者営業トレーニーとして、住宅業者に対する営業力強化・推進話法等のスキルアップを研修するとともに、各JAの融資渉外実績検討会等に参加し、意見交換を行うことにより、他JAの効率的な推進体制等を参考にさせていただいております。この研修で培われた知識・スキル等を業務に活かし、融資の伸長を図るとともに、JA足利の若い信用事業職員を指導育成したいと思います。



JA秋田しんせい 渡部 若子

（研修先：秋田支店）

年金トレーニーとして、地域の推進企画、実践研修に参加するなかで、JAバンクのネットワークの強さ、熱意を日々感じております。県内JA職員との交流を通じて、自JAの年金推進のあり方について見つめ直し、課題や戦略について意見交換できることは貴重な経験となっています。今後も、人と人のつながりを重視した活動を目指し、組合員、地域住民のみなさまに貢献できるよう取り組んでいきたいと思っています。



JAあおば 栄 政晴

（研修先：JAバンク企画推進部）

JAでは支店融資担当をしてきたこともあり、ローン推進について勉強したいと思っていました。ローングループに配属になり、全国のJAの成功事例や取組みの情報を収集することができ、勉強になることばかりです。今後は、金庫の本店でしか得られない経験を通して、JAで活かせる知識を身に付けられるよう一日を大切に過ごしています。



JAおきなわ 茂太 徹

（研修先：JAバンク企画推進部）

本研修にあたり、JAにおける信用事業の推進企画や指導業務に関する様々なノウハウを習得することはもちろん、それ以上に「人（職員同士）のつながり」をより強

固なものにし、多くの方々と繋がりを持ち、良きパイプ役になれる人材になりたいと思っていました。人材育成や交流が習得・経験できるJAトレーニー制度は、素晴らしいものであり、今後も継続していただきたいと強く望みます。



JA秋田おぼこ 鈴木 靖浩

（研修先：秋田支店ほか）

JAトレーニーとして半年間は企画推進部、そして現在秋田支店で研修させていただいています。日々の業務や意見交換を通じて、強く感じたのは「人材育成」が最も重要

であるということです。それは支店に在籍している今も変わらず自JAでも課題であると感じており、自分でもその解決策を日々考えるようになりました。この研修は自分にとって大変有益なものであり、今後の活動にも役立てていきたいと思っています。



JA秋田ふるさと 佐々木 仁

（研修先：秋田支店）

今年度から中期戦略の一環として、年金トレーニーの受入れが行われ、半年間、年金推進の企画や基礎知識について学んでいます。自分のステップアップと同金庫職員や県内JA職員と絆を深める絶好の機会となっています。研修を通して、年金の受け取りや各種手続きのお手伝いなど、幅広い相談に適切なアドバイスができるよう、専門的なスキルの習得を図り、自JAで活かしていきたいと思っています。

人的交流  
の強化

信農連・JA等 → 農中

信農連等からのトレーニー・出向の受入れ

リテール企画・事務統一企画・制度対応・農業融資・法人融資・有価証券運用といったさまざまな業務で信農連等の職員の受入れを進めているほか、JAバンクの全国統一システムであるJASTEMシステムを担う農中情報システム株式会社でも多数の人材を受け入れ、システムの安定運営に取り組んでいます。

JAバンクのリテール企画業務

JAバンク中期戦略で掲げる生活メインバンク機能強化にかかる業務企画を担当しています。信農連での経験を、全国のJAバンクで取り扱う貯金・年金・給与振込・JAカード・ローン等の商品・サービスや、営業力強化策の全国企画に活かしています。



JAバンクの事務統一にかかる推進・企画業務

JAバンクにかかる全国統一事務手続の整備や、その円滑な導入・定着に向けた県域取組支援策の企画を担当しています。これまで、全国統一事務手続については、個々のJA・県域ごとに整備されていましたが、これを全国で一元的に対応することによって、JAバンク全体としての効率性向上や内部けん制体制の水準の向上等を目指しています。



JAバンクに関する制度対応業務

JAバンクの業務にかかる法規制・会計制度等について、さまざまな環境変化のもと、適切な対応が行われるよう、制度全般に関するとりまとめを行う役割を担い、特に最近では、利用者保護に関する対応に力を入れています。

また、JAバンクが一体的業務運営を行っていくための「JAバンク基本方針」も、このチームが担当しています。



農業融資・社会貢献活動の企画業務

JAバンクが掲げる「農業メインバンク機能の強化」に向け、全国のJAバンクで取り扱う農業融資商品や、地域農業の担い手への訪問・融資・相談対応、JAバンクの社会貢献活動「JAバンクアプリサポート事業」などの企画を担当しています。

また、当金庫自身の農業融資業務を直接担当する出向者もあり、農業融資業務に関するノウハウの共有も行っています。



有価証券運用業務(研修制度)

当金庫では、信農連を中心とした人材育成の一環として、有価証券運用に関する研修制度を運営しています。研修は、当金庫グループ内およびみずほ証券株式会社とも連携し、講義・模擬ディール・ポートフォリオ分析などを行う実践的な内容となっています。

昭和60年の制度創設以来、これまでに迎えた研修生は500名を超えています。



JASTEMシステムの開発・運用業務

JAバンクの全国統一システムであるJASTEMシステムの開発・運用や、事務手続の作成、システムユーザーのサポート等を担当しています。JA・信農連で培った現場での実務経験を活かし、より良いサービスの提供に向けた取組みをシステム面から支えています。



法人融資業務

当金庫本・支店で行う法人融資を担当しています。信農連で培われた経験をもとに、当金庫のフィールドで融資業務に携わることにより、ノウハウの共有と蓄積を進めています。



人的交流  
の強化

農中 → JA・信農連・県中央会

JA・信農連・県中央会への出向

当金庫の基盤である系統信用事業の現場を肌で感じ、協同組織中央機関職員としての自覚を一層高めることを目的に、受入れ先の協力を得て当金庫職員の系統団体(JA・信農連・県中央会)への出向を充実させています。



「事業推進の最前線の厳しさを実感するとともに、総合事業体であるJAの業務の幅広さを再認識しています。」

「系統信用事業の最前線で働く方たちの努力と苦労を再認識させられました。この体験を糧にして、JAの取組みにより貢献できるようにがんばります。」

「地域に根差した農協事業を体験するなかで、地域における農協の役割を改めて実感しています。ここで培った思いを形にしていきたい。」



「新たな出会い、新たな視点、毎日が新鮮です。系統信用事業の存在意義を考えさせられる日々です。」

「系統組織が一体となった取組みの必要性を実感する日々です。」

「JA事業を通じた農業・地域発展に貢献していきたい。」

「農業融資の難しさ、大切さを日々感じています。」

「県域推進機能のやりがい・重要性を実感する毎日です。」



「現場の実情を学び取りたい。」  
「協同組合としての意義、JAの取組みをサポートする連合会の役割を再認識しています。」  
「JA組合員のニーズや第一次産業の大切さを肌で感じながら、業務に取り組んでいます。」  
「JAごとに異なる状況と多様なニーズ、そしてそれに応えるためのみなさんの努力。毎日が貴重な経験です。」

「日々、『現場力』の重要性を実感しつつ、貴重な経験を積んでいます。」  
「人とのつながりの大切さ、地域とともに生きていく力を感じています。」  
「現場での事業推進の難しさを実感するとともに、それを支援するために県連・全国連はどうあるべきなのか熟考の日々です。」  
「JA出向者・信連プロパー・金庫出向者がひとつのチームのなかでケンケンガクガク、何か新しいものを生み出したいとがいています。」



講演会等

系統団体や農林水産業に従事されている有識者の方々を招聘しご講演いただくなど、農林水産業や系統団体に貢献していくという当金庫の基本的使命を役職員全員がより深く理解し、業務に活かしていくための取組みを進めています。

平成22年度は、本店地区においては、7回にわたって系統の全国連、県連およびJAの役員の方々と農業法人の経営者を講師としてお招きして、農林水産業の現状や系統団体の現場での取組み、当金庫への期待等について役職員にお話しいただきました。また、大阪支店や札幌支店、高松支店など複数の支店においても同様の講演会を実施しています。

このほか、農林水産業の時事問題、協同組合の歴史等個別テーマの知識を深めるための職員向けの勉強会を活発に開催しています。



長崎県信漁連馬場会長による講演会風景

農林水産研究会

当金庫の経営層自らが農林水産業等の現状・課題等に対する認識を深め、今後の経営・業務運営に活かしていくことを目的に、外部より講師をお招きし、役員・関係部長による月次の意見交換会を開催しています。

平成22年度は、新社社長(株式会社平田牧場)、澤浦社長(グリーンリーフ株式会社)、加藤会長(生活クラブ生協連合会)、伊藤社長(株式会社マルハニチロ水産)、大塚専務(日本スーパーマーケット協会)等、主として農林水産業の生産・流通・販売の第一線で活躍されている方々を講師としてお招きしました。

また、「TPPと日本農業」「新しい公共」等の時事問題や、「協同金融」等の協同組合の一員であることを再確認するテーマも取り上げております。

なお、平成23年度は従前の取組みに加え、「東日本大震災からの復興に向けた取組み」を大きなテーマに据え、現地の農林水産業復興に携わっている方々にお越しいたごき、金庫が震災復興に取り組む一助にしたいと考えております。



グリーンリーフ(株)澤浦社長

働きやすい職場環境に向けて

人権意識の向上

当金庫は、人間尊重の考え方に基づく透明性の高い組織風土の構築に努めており、毎年度の理事会において方針を決定したうえで、役職員に対するさまざまな人権問題に関する教育・啓発などの諸施策を実施しています。

また、セクシュアルハラスメントおよびパワーハラスメント防止にあたっては、金庫内の相談窓口担当者に加え外部相談窓口も設置するなど、職員が安心して働ける職場環境の維持・向上のため、さまざまな取組みを実施しています。

さらに、JAグループの一員として全国農業協同組合中央会と連携し、当金庫グループ会社を含めた人権意識の一層の向上に取り組んでいます。

子育てサポート企業(くるみん)の認定

当金庫は、次代の社会を担う子どもたちの健全な育成環境の整備を目的とした「次世代育成支援対策推進法」に基づき、育児支援制度の充実を通じた職員の育児と仕事の両立支援に取り組んでいます。

平成21年度から2年間の行動計画にて、育児休業取得要件である子の年齢基準の緩和、育児短時間勤務制度の新設、一定期間の有給による育児休業制度の新設等を進めてきた結果、平成23年6月に「子育てサポート企業」の認定を受けました。



主な社会・環境貢献活動実績(平成22年度)

地域・社会貢献活動

「花いっぱい運動」の全国展開

- 32支店・事務所・推進室で地方公共団体、各種学校、老人クラブ等にチューリップ球根、花種を寄贈
- 公園等への花壇寄贈(札幌、盛岡、福島、水戸、高知、鹿児島)
- 花いっぱいコンクール、「緑と花の街づくりコンクール」、「みやざきフラワーフェスタ」等各地緑化推進活動への協賛



花壇(高知推進室)

環境美化活動への参加・協力

- 清掃ボランティアへの参加(札幌、青森、山形、福島、宇都宮、富山、名古屋、大阪、鳥取、岡山、高松、熊本、鹿児島、那覇等)
- 富士山(甲府)、御堂筋(大阪)、長崎市等の環境美化団体・イベントへの寄付



清掃ボランティア(鳥取推進室)

地域振興・食農教育の支援

- 「おきなわ花と食のフェスティバル」、「ひめじ田宴アート」、「ながさき実り・恵みの感謝祭」、「ファーマーズ&キッズフェスタ2010」等、地方公共団体・系統団体の地域振興活動への協賛

社会福祉活動・義援金活動

- 当金庫およびグループ、職員有志による募金協力  
NHK歳末たすけあい・海外たすけあい、日本赤十字社、赤い羽根共同募金、緑の募金、漁船海難遺児英資金年末募金(水色の羽根募金)、東日本大震災復興支援募金・義援金、アジアとの共生募金
- ランドセルカバー寄贈(青森)、防犯ブザー寄贈(高知)、交通安全運動への協力(大分)



ながさき実り・恵みの感謝祭(長崎支店)

海外での取組み

- NY支店「農林中金基金」による義援金支出(ジャバソサエティ、NY市植物園、社会的弱者支援活動、メトロポリタン美術館等)、寄付先が実施するチャリティ・イベントに参加し、ファンドレイジング(資金集め)に協力
- 学生インターン受入れ(北京、シンガポール)



県産間伐材製品の寄贈(宇都宮支店)

環境・自然保護活動

地球温暖化防止、生物多様性保全活動への協力

- 間伐材の利用促進  
木質ペレットストーブ、木製ベンチ・レイズドベッド(花壇)等の寄贈(山口、関東業務、仙台、宇都宮、大阪、松江)、「木の名刺を使おう運動」、「間伐材使用の紙利用の促進」
- 日本野鳥の会活動への協力(フリーペーパー『Toriino』の発行支援)



『Toriino』(日本野鳥の会)

環境負荷低減に向けた当金庫グループでの活動

- 省エネルギー対策(省エネ法、東京都条例対応、クールビズ等節電対応)
- ペーパーレス化、資源リサイクル推進
- グリーン適合法適合商品購入

教育・研究支援活動

大学寄付講座

- 東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、東京理科大学、一橋大学

高校の職場訪問受入れ

- 鹿児島県立鶴丸高等学校



東京理科大学寄付講座

花いっぱい運動

宮崎推進室の取り組み

宮崎推進室では、宮崎市の市民運動のひとつである「まちに緑と花をふやす運動」に参加し、春と秋の年2回、種子・球根を市内の小中学校・幼稚園に贈呈しています。この取り組みは、当金庫が全国展開している「花いっぱい運動」を始めた昭和41年から実施しており、今回で88回目となりました。毎年10月頃には、チューリップの球根を贈呈しています。地域住民の方と地元小学校の児童で植栽を行い、花と緑のまちづくりに役立ててもらっています。



宮崎推進室  
古城小学校での贈呈式

また、宮崎を代表する花の祭典「フラワーフェスタ宮崎」にも協賛しているほか、宮崎市が実施している花のまちづくり運動の各種行事に、宮崎市を通じて花の種を配布しています。

寄贈先からの声

宮崎市立古城小学校 教頭 前田 健様

本校は、宮崎市大淀地区の南西部に位置する全校児童191名の学校です。周りが野山に囲まれており、この豊かな自然環境を生かして、米作りや野菜作りなどの農業体験学習に取り組んでいます。

3月に農林中央金庫さんからいただいた、ニチニチソウ、ダリア、グラジオラスは、校舎南側の花壇に植えて、大事に育てています。みんなで花いっぱい優しさいっぱいの学校になるようにがんばります。どうもありがとうございました。

海外での取り組み

北京駐在員事務所のインターンシップ受入れ

北京駐在員事務所では、現地の学生および日本からの留学生に当金庫に対する理解を深めてもらうため、2年前からインターンシップ受入れを行っています。

研修では、主に現地新聞記事の翻訳、中国経済・産業等に関する報告書の作成、セミナーの出席等を担当します。北京駐在員事務所では、中国のマクロ経済や各産業動向等を分析し情報発信していますが、実際に海外駐在員事務所の業務を体験し、当金庫を含む日系企業の海外拠点業務について理解を深めてもらうことを目的としています。

最初は記事の見方や日本語翻訳、表現の仕方等を学びます。あわせて、外部機関の主催するセミナー等への出席を通じ、最先端の研究成果に触れるとともに、要旨

を簡潔にまとめ報告するという実務能力も養います。最後に、研修の仕上げとして自分で選んだテーマについて調査、報告してもらいます。

日本人留学生および現地の学生に日系企業の海外業務を理解してもらい、日系企業へ関心を持ってもらううえでも、インターンシップ受入れは学生に非常に好評であり、今後とも継続していく方針です。



研修中の風景

関東業務部「県産間伐材ベンチ寄贈事業」



寄贈した県産間伐材ベンチ

県内産の間伐材ベンチを寄贈

関東業務部では、茨城県の特別史跡である弘道館公園に8基のベンチを寄贈しました。この取り組みは、茨城県で推進される「いばらき木づかい運動」の目的である森林環境の整備、県産材の利活用といった趣旨に賛同し実施したものです。寄贈したベンチは、茨城県森林組合連合会によって製作されたもので、茨城県北部八溝山系から切り出した樹齢40年のスギ間伐材を使用しています。「梅の公園」としても



全国的に名高い弘道館公園に来園される多くの方々に、間伐材の有効利用の大切さを理解いただければと考えております。

茨城県農林水産部 次長兼林政課長 栗田 晴二様

先日は、県産材を使用したベンチを寄贈いただき、ありがとうございました。「いばらき木づかい運動」を今後さらに展開していくため、大切に活用させていただきます。



地球温暖化対策に向けた取り組み

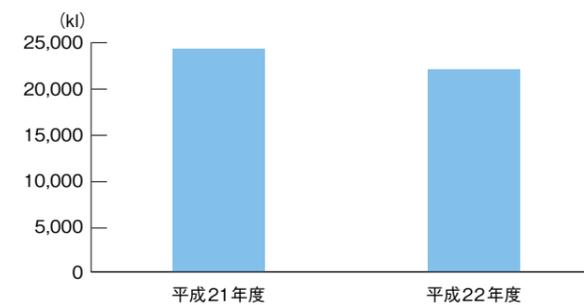
省エネルギー・省資源への取り組み

当金庫は、省エネ法改正を踏まえ、エネルギー管理体制を新たに構築して、全社的なエネルギー使用量の「見える化」を実現したほか、設備更新時における省エネルギー化の検討、適切な空調温度の設定、クールビズ活動など地球温暖化対策にも引き続き積極的に取り組んでいます。

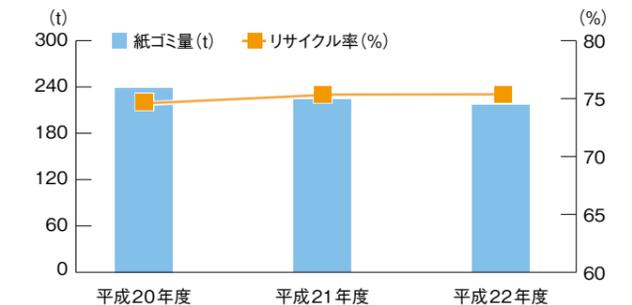
また、両面コピーの原則化や電子メールの活用等による紙使用量削減のほか、リサイクルの促進にも取り組んでいます。

今後も、省エネ法や各都道府県条例に適切に対応し、地球温暖化対策に向けた取り組みを一層強化していきます。

エネルギー使用量(原油換算)の推移



紙ゴミ量とリサイクル率 (DNタワー)



## 大学への寄付講座開設

大学と連携し、学生たちの教育や研究を支援

当金庫は、農林水産業や金融・投資に関する教育・研究活動に寄与するため、平成20年度より寄付講座の設置に取り組み、国内5大学で開設しています。

さらに平成23年度からは、早稲田大学への委託研究も開始しました。

寄付講座には、当金庫およびグループの役職員も出講し、次世代を担う若者に対して、当金庫およびグループで蓄積した実務知識・ノウハウを提供しています。



講義の風景(東京大学)

大学名	設置科目	備考
早稲田大学 (オープン教育センター)	農山村体験実習	(株)農林中金総合研究所との共同設置。
	食と経済、協同組合論(隔年)	
早稲田大学(留学センター)	農を基礎とした持続的社会的な研究	北京大学との共同講座として北京で開催。
早稲田大学(委託研究)	農業・食料の世界的枠組み形成と国際交渉に関わる研究	
東京大学経済学部	証券投資：理論と実践	
東京理科大学工学部	金融工学Ⅰ・Ⅱ	農中情報システム(株)との共同設置。
慶應義塾大学大学院 システムマネジメント研究科	Active Learning Program Sequence (ALPS)	
	AGRIゼミ	
一橋大学経済学部	自然資源経済論	(株)農林中金総合研究所が運営に協力。

### 東京大学経済学部「証券投資：理論と実践」

東京大学大学院経済学研究科 教授 あらいとみお 新井 富雄様

寄付講座における主な活動は3つあります。第一は、「証券投資：理論と実践」の講義です。この授業では株式投資だけでなく、債券投資や金融機関のリスク管理にいたる幅広いトピックをカバーしています。金融機関のリスク管理に関しては、農林中央金庫からゲスト講師を招き実践的な講義を実施いたしました。第二は、海外からの多くの講師を招聘して8月はじめに京都で開催する国際カンファレンズ「International Workshop on Finance 2011」の共催です。第三は、若手研究員の研究支援です。このように農林中金寄付講座では、学部生の証券投資に対する関心、理解度を高めると同時に、最先端のファイナンス研究の推進を図っています。



### 寄付講座における書籍のご紹介

当金庫寄付講座での活動の成果が書籍化され、広く社会に発信されています。



一橋大学  
「自然資源経済論入門」  
農林水産業を見つめなおす



早稲田大学  
「書を持って農村へ行く」  
-早稲田発・農山村体験実習のすすめ